

自己評価資料 A 令和 2 年度経営の重点、教育保育の内容に関する評価割合

令和 3 年 3 月

学校法人島田中央学園認定こども園島田中央幼稚園長 村上泰造
同 学校関係者評価委員長 麻布文夫

1. こども園の教育目標 「元気にあそぶ子」
重点目標 ・自分で考えのびのび表現できる子・誰とでも遊び思いやりのある子・夢中になり、力いっぱいがんばる子・良い生活習慣を身につける子
2. 自己評価と学校関係者評価 評価基準 A:よく達成している B:達成している C:どちらとも言えない D:達成していない E:全く達成していない

		保護者	職員	自己評価	学校関係者評価 A+B
教育方針 教育保育 目標	①教育保育目標「元気にあそぶ子」は達成されている。	99.5	100.0	・①教育目標を理解しそれに向かって保育を進めている園の姿勢に対し、保護者もそれを理解してくれていることが、高い評価からもわかる。また、②は目指す教育の方向を職員が共有し同じ姿勢で教育保育に当たっていることが保護者にも伝わり高い評価になっていることが、園としても自信につながる点である。	100%
	②教育保育目標や教育方針を共有し、同じ姿勢で教育保育にあたっている。	96.7	100.0		100%
遊びを中心とした 教育保育	③子どもの発達段階や興味関心に応じた教育保育を行っている。	98.6	100.0	・③④⑤⑥⑦園の子どもの発達に応じた保育・自然や体験を生かした保育・一人ひとりを大切にする保育が定着し保護者の理解と共に期待も込められていると考える。異年齢の活動に関しては、コロナ感染症の影響もあり、広く行うことが出来なかったことで評価もやや低くなっている。	100%
	④自然を活かし、「季節感のある豊かな体験をととした教育保育」を進めている。	99.2	100.0		100%
	⑤異年齢集団での遊び・活動を取り入れた教育保育を行っている。	92.2	90.9		100%
個を大切に した 教育保育	⑥一人ひとりに目を配り、声掛けをして個々の子どもの良さを伸ばす教育保育をしている。	95.9	100.0	・⑧⑨社会性の育成においては、園の教育は、子どもたちがのびのびと自由にあそぶことと同時にきまりや約束・我慢をすることの大切さを重要視していることも保護者の理解が進んできていると感じる。	100%
	⑦子どもに平等に接し、意欲や自信を育てる教育保育を行っている。	97.2	100.0		100%
社会性の 育成	⑧集団生活に必要なきまりや約束、我慢することの大切さなどを学べるよう工夫している。	92.7	100.0	・⑩⑪教育要領に、示されているように園では子どもが自分から遊びに関われるように環境を整えていくことに努力しており、園内研修でも「環境」についての研修を進めている。	100%
	⑨豊かな人間関係を築いていくための基盤を年齢に応じて育てよう努めている。	93.1	100.0		100%
環境構成	⑩園生活や遊びの流れが子どもにとって無理のないように配慮している。	98.1	100.0	・⑫特別支援教育は関わった人しか答えられない問いであるため数値は低い、特別支援が必要な子に対して支援を厚くしてあげてほしいという意見が保護者からも出ていて、特別支援に対する理解が進んできていることを感じた。園としても期待に応えたい。	100%
	⑪子どもの目線に立って、遊具や教材、保育室の環境整備を心がけている。	96.3	95.4		100%
特別支援 教育	⑫特別な支援が必要な子どもに対して保護者や専門機関と連携し、支援を進めている。	76.2	100.0	・多様な交流については年度当初計画していたがコロナ感染症の流行により、中止せざるを得なかった行事がある。その影響で評価が低かったが、来年度は活動できるよう期待する。	76.9%
多様な 交流	⑬小学校との接続を考え積極的連携を進めている。	77.9	75.5	・健康については、養護教諭から分かりやすい「保健だより」がたびたび発行されていることから園への信頼度が高まり安心につながっていると考え。また、園長からの園だより、園長だよりをとおして危機管理について伝える場を多く設けたので、職員指導の面でも意識が高まっていると感じる。また、保護者への発信も危機管理の面で必要を感じた場合はすぐにメール等で伝えスピード感をもって対応する園の姿勢が見え、信頼につながっていると考え。防災用品の備蓄は充実してきているが保護者に伝わり切れていない部分があるので、来年度は何らかの方法で知らせていきたい。	76.9%
	⑭地域の様々な人との交流の場を設け、人とのふれあいを大切にしている、	80.2	76.1		84.6%
健康 安全管理	⑮健康管理について気を配っている。	95.4	100.0	・⑯⑰保護者との連携の部分では、園で出しているお便りのわかりにくさが評価を下げていた。保護者にとってのわかりやすい発信はどんなものが良いのか、携帯電話を常に情報の中心にしている保護者世代のニーズとペーパーレスの時代を考慮して時代に合った発信を考えていきたい。	100%
	⑯定期的な安全点検や事故防止対策等、子どもの安全管理に努めている。	92.7	100.0		100%
	⑰定期的な避難訓練、防災備蓄品の用意等、防災意識を高めようとしている。	90.6	100.0		100%
食育	⑱食に関する指導を年齢に応じて適切に進めている。	92.7	95.4	・⑲⑳保護者との連携の部分では、園で出しているお便りのわかりにくさが評価を下げていた。保護者にとってのわかりやすい発信はどんなものが良いのか、携帯電話を常に情報の中心にしている保護者世代のニーズとペーパーレスの時代を考慮して時代に合った発信を考えていきたい。	100%
	⑲安心安全で子どもが楽しい食事の時間を過ごせるよう配慮している。	99.4	100.0		100%
保護者 との連携	⑳こどもの声や、保護者から寄せられた相談や意見要望に適切、丁寧に対応している。	93.1	100.0	・㉑毎年話題となる預かり保育についての要望は、園としても努力をしている。最近では新 2 号、新 3 号という区分が出来、市から預かり保育にかかる費用を免除するシステムが出来たので要望も落ち着いてきているように思う。	100%
	㉑行事予定や園・クラスだよりなどで保護者に対して情報を適切に伝えている。	87.3	95.3		92.3%
その他	㉒1号の園児を対象とした預かり保育の日数や時間、料金、保育内容などは、こども園として適切に設定されている。	77.0	95.2	・㉒⑳⑳保護者との連携の部分では、園で出しているお便りのわかりにくさが評価を下げていた。保護者にとってのわかりやすい発信はどんなものが良いのか、携帯電話を常に情報の中心にしている保護者世代のニーズとペーパーレスの時代を考慮して時代に合った発信を考えていきたい。	92.3%
	㉓1号と2号の園児が混じり合っている学級での諸活動は双方の園児にとって有意義である。	87.4	95.4		92.3%
	㉔3号の園児の生活する保育室の環境は、発達段階に応じ、安全で心地よく過ごせる場として整えられている。	76.0	95.4		92.3%

自己評価資料 B

令和3年度に向けての具体的改善策

	課題	考察と改善策	学校評価 委員評価 A+B
教育保育目標 達成度 ①99.5% ②96.7% ③98.6% ④99.2% ⑤92.2% ⑥95.9% ⑦97.2% ⑧92.7% ⑨93.1%	<ul style="list-style-type: none"> 共通理解を深めるために話し合いの時間を生み出していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに園目標「げんきにあそぶ子」に向けての4つの柱「自分で考えのびのび表現できる子」「誰とでも遊び思いやりのある子」「夢中になり力いっぱいがんばる子」「よい生活習慣が身についている子」を踏まえた上で、さらに園目標に近づくために今年度は、特にどこを重点化して保育していくことが大事なのかを若手を中心に全保育教諭で話し合い、共通の思いで園目標に向かう姿勢を整えていくようにした。それにより、園の指標となる「グランドデザイン」が出来上がった。 これにより、保育への姿勢に共通の視点ができ、経験年数の少ない教職員にとって当園の目指す方向がわかりやすく保育活動が常に園目標を意識したものに考えられるようになり、保育の向上につながったと考える。 「褒めて自信につなげ自己肯定感を高める」、「子どもの気持ちに寄り添う」、「ひとりひとりを大切にす」「子どもがやりたくなる環境を整える」などの望ましい保育の姿勢を確認し合い、日々の保育に役立てることができた。 来年度に向けても全員で話し合う時間を設け、方向性を確認し合い共通意識が持てるように考えていく。 	100%
環境構成 ⑩98.1% ⑪96.3%	<ul style="list-style-type: none"> 「環境構成」に関する研修成果 保護者 98.1%、96.3%、高評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の園内研修テーマは「環境」で、子どもたちにどんな環境を構成してあげればより安心で、自主的で挑戦的に活動に臨めるか、を考えて研修を進めてきた。 研修の結果、子どもに様々な環境設定ができ、子どもたちに多くの育ちを感じ研修の成果として確認することができた。 今年度の研修のまとめとして、研修を通じて子どもたちに育ったものは「探求心」・「自分たちで生活を作ろうとする力」・「認め合う力」・「遊びこむ力」・「明日への期待」・「安心して落ち着いた生活」・「自立心」・「良い生活習慣が身に付く」・「先を見通す力」・「友達との関わる力」・・・などが挙げられる。 文科省から示されている「教育保育要領」では「環境を通した教育保育」が求められており、この点からも来年度も引き続き教育保育の質の向上を求めていきたいと考えます。 	100%
多様な交流 ⑬77.9% ⑭80.2%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者 80.2%教職員 76.1%でどちらの数値も低くはなかったが、コロナ禍による活動制限のためと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度はコロナ感染症対策もあり、活動に制限がかかり、やりにくかった面がある。しかし、コロナ禍であっても、2・3号児の放課後の生活は異年齢そのものであった。 異年齢の交流は、わざわざ時間を設定して活動しなくても自然なかかわりが園庭の自由なあそびの中で見られており、今までどおりのふれあいこそが、本来の異年齢交流になっていて園としては、これで良いのではないかという共通理解ができた。 異年齢交流についてはも写真入りのクラスだよりで伝えるなど、知ってもらう機会を増やしていきたい。 小学校・中学校（今年度は3回交流）との交流については、来年度もコロナ感染症の対応は続くと思われるが可能な範囲で計画に組み入れていく予定。 	100%

<p>健康 安全管理</p> <p>⑮95.4% ⑯92.7% ⑰90.6%</p>	<p>・1号2号・3号の生活の中で、子どもの見守り体制をさらに安心できる状態を目指すため、人の動きを見直していく必要があるのではないか。</p>	<p>・職員の支援体制においては、微調整をして特に乳児クラスの見守り体制の人数を増やしていく。また、預かり保育、新2号児・新3号児が増える中の職員体制を見直す。また、子どもたちの夕方までの過ごし方の安全性について見直しをしていく。ただし、限られた職員数の中でのやりくりにはかなり厳しさがあるのが現状である。</p> <p>・特に乳児クラスの担当職員の入れ替えをなるべくせず、子どもにとって、安心できる体制を整える。長時間保育となるので、家庭にいるような安心できる自由さ、時間の穏やかさを考えて、計画をたてていく。</p>	<p>100%</p>
<p>食育</p> <p>⑱92.7% ⑲99.4%</p>	<p>・コロナ感染症の心配から積極的に取り組めなかった。しかし、給食に関しては安定した評価が認められた。</p>	<p>・感染症の対応として、自動皮脂消毒機の設置・黙食の指導・対面食事の回避のため食事用テーブルを増やすなどの対応をした。</p> <p>・感染症と常に隣り合わせの生活は続くと思われるが、子どもの食に対する興味を高める効果が見られた空弁の回数を増やしたり、ミールケアに協力を求め、安心安全な中で簡単おやつメニューも増やしたりして、食をより楽しませていく工夫をする。</p> <p>・毎月の給食会議により、調理方法、量、配膳の工夫など細かい改善が続いている。</p> <p>・季節に合った食材、メニュー、行事食、二十四節季料理、お箸の使い方教室・食器の置き方など、安心安全な給食に加えて楽しみで学べる給食として、保護者からの評価も高いと感じる。</p>	<p>100%</p>
<p>保護者との 連携</p> <p>⑳93.1% ㉑87.3%</p>	<p>・園から発行するお便りに対してわかりにくさがあり、評価値が低くなっている。</p>	<p>・子どもたち一人一人に丁寧なかかわりをしていくことは、当園の保育の根幹となる部分であり、担任は常に子どもの声を聞いたり、保護者からの相談への対応は直接話をしたり、電話や手紙等で丁寧な対応を心掛けて保育している。そして、保護者からもこの評価は高い評価を受けている。</p> <p>・園で出しているお便りが、たくさんでわかりにくい、発行が遅い、間違いがあるなどの指摘があり、評価が下がっている。時代は、ペーパーレスに変わり、携帯電話を情報の中心としている年齢層の保護者にとって、わかりやすい伝え方を考えていきたいと思う。</p> <p>・メールを使いすぐに伝える「スピード化」と見やすさを考えてレイアウトを変更するなど、できるところから改善するよう努力していきたい。</p>	<p>100%</p>
<p>その他 預かり保育</p> <p>㉒77.0% ㉓87.4% ㉔76.0%</p>	<p>・預かり保育事業については、働く母親の急増により利用を望む声が増えている。新2号・新3号児等への市の対応も進んでおり、長期休業中の預かり保育への希望が特に高い。これにより、経済的な面での保護者の負担は軽減しているものの預かりの人数は増加傾向、それに対応する職員数には限界があり、職員負担は年々高くなっている。</p>	<p>・長期休業中の預かり保育は、働くことを証明できる就労証明書と個人面談を義務付けたうえで受付が可能になる。</p> <p>・ただし、利用者にとって必要最小限の中での預かりを基本とし、働く時間を保証していきながらも親と子のふれあいの時間が家庭で設けられるよう声を掛けることも大切だと考える。</p> <p>・職員への負担は年々高くなるが、解決の方法は今後の大きな課題である。</p>	<p>91.6%</p>
<p>行事</p>	<p>・家庭訪問は、年度末からの休み続きで働く母親たちが仕事を休めない悩みが多かった。</p> <p>・運動会は時期が暑すぎて、午後までの競技は長いという不満があり半日で行った。</p> <p>・自然体験の減少と新しい取り組み・強みに変えていく。</p>	<p>・家庭訪問は、子どもとの距離が近くなる良い機会ととらえてきたが特に2・3号児の親は休みがとりにくく働く母親が増えてきていることを考慮して、来年度は面談に切り替える。5月を予定している。</p> <p>・運動会は、保護者の要望に応じて半日で終わるようにプログラムを検討した。結果はとても好評であった。来年度も半日で行い、更に時間短縮を考えて、競技の時間は削らずに子どもの動きに無駄のないように見直していく。</p> <p>・小学校・中学校との交流については、来年度もコロナ感染症の対応は続くと思われるが可能な範囲で計画に組み入れていく予定。</p> <p>・田んぼの経験が減ったが、食育につながるサツマイモ収穫体験・トウモロコシ収穫体験、みかん狩りなどの体験事業をとおして、畑作りをしている人と深くかかわったり、草取りや水かけをとおして、たびたび作物の成長を確認したりするなど、大切に経験させていく。</p> <p>・伊久美地区の自然探検・リース作り・野鳥の観察など園長の講話によって子どもたちの世界がひろがっている。新しい自然との関わり方として、来年度も計画する予定。</p>	<p>100%</p>